



伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会報

平成 24 年 2 月 25 日発行

第 2 号

■ 創立百周年記念式典・講演会、祝賀会を開催しました ■

創立百周年記念事業にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。おかげさまで、平成 23 年 10 月 8 日（土）、爽やかな秋晴れの下、長野県伊那文化会館において、在校生、同窓生ら約 1500 名が出席して執り行われました。百年の歴史の中で女子校から共学校へと大きく変革しながら発展を続けてきた母校の節目を祝い、次への新たな飛躍を誓いました。



◆記念式典

会場には華道クラブにより活けられた花が華やかに飾られ、器楽クラブがロビーコンサートで盛り上げる中、電気通信部・合唱クラブのアトラクションから幕を開け厳かに進められました。

記念事業実行委員長の清水貞子同窓会長はあいさつで、一世紀の歴史を支えてきた同窓生や教職員に感謝の気持ちを表した上で、「新たな時代に向け、多くの経験を重ねることが一層充実した高校生活となり人生の宝となる」と在校生に呼びかけました。

※式典に引き続いて、姜尚中氏による記念講演会が行われました。〈講演会要旨は次頁をご覧ください〉

なお、会場の都合上入場制限をさせていただいたため、多くの皆様にお聴きいただくことができず大変申し訳ございませんでした。お詫び申し上げます。

◆祝賀会

330 余人の出席者が会場をいっぱい埋め尽くし、来賓、学校の先生方、PTAの方々をはじめ懐かしい恩師、同窓生らと旧交を温めました。また、同窓生による演奏などでにぎやかな宴席となり時間が過ぎるのを忘れ、名残惜しく感じられました。





◆記念講演会

「悩む力」(要旨)

東京大学大学院教授 専攻は政治学・政治思想史 姜 尚中氏

実は長野県には少し縁がある。

大学時代

の片想いの人が長野県出身だったこと。恋文を出したが、返事はもらえなかった。(会場笑)

大学時代の恩師藤原先生は安曇野出身の政治哲学の先生。今から四十年位も前に、自然との調和なくして人間の社会はあり得ないという主張をしておられた。

韓国の元大統領、金大中氏(注；ここで姜尚中氏は、金大中氏の夫人が本校の卒業生だということを伝える予定だったと思われますが、言い損ねてしまったようです)は、危機的だった韓国経済を大きく回復させた人で、日韓文化交流もプッシュし、今日のKポップや韓流の隆盛に繋げた。私が大学を卒業する頃、野党時代の彼は東京のホテルから本国の情報員によって拉致された。私はこの事件に大変ショックを受け救出運動に加わった。

大震災後、相馬市を訪れた。放射能汚染が深刻で、疎開して農業を学ばなければならない南相馬市の農業高校生たち。家族を亡くした虚ろな笑顔の高校生。一日に三か所で夫、娘、息子の遺体確認し一人残された女性。今まで見たことのない、別世界のような瓦礫の光景と空気。ここで起きていることは皆さんのような若い世代にとってどういう意味があるのか、我々のように他の地域に住んでいるものにとってどんな意味があるのかを考えた。

私の母は文字が書けない。勉強するという動機づけのない環境で、私は野球に打ち込んでいたが、ある時から引っ込み思案になり、悩んでいる時代が長かった。人は死ぬということを知らされた経験もトラウマになった。

また、男の子は十六～十七歳の頃、自分で自分を統制できないような何か知らない大きな力につき動かされることがある。性に目覚め、大人の社会を知り、友人関係に悩み、未来に展望を開けない。私にとっては、封建的な熊本の風土と野球部の生活も苦痛だった。しかし、この時期を徹底的に悩みながら渡る人と、難なく渡ってしまった人とは、厳しい時代に立ち向かう時のスタンスが違って来る。苦しむことは大切。

誰があの日大地震が起こると予想しただろうか。まさかよりによって自分が生きている時代に、しかも自分が青春を謳歌すべき時代にこんなことが起きるとは。皆さんや南相馬の高校生に、「Boys, be ambitious!」と言っても響かないだろう。あまりにも現実が重い。

皆さんは大変困難な時代に生き、日本も世界もうつ状態の中で青春を迎えている。だが今回のような事態に遭遇すると、人は取り繕った関係だけでは生きていけない。本来の人間に戻らざるを得ない。そこに希望がある。

大震災で日本は変わった。東京は節電で暗い。人々の生活も意識も変わった。二万人もの人が亡くなった。トーマス・マン『魔の山』の世界と今の日本の状況は似ている。今回のこの大きな変化を受け、ここで価値観を変えられなければ日本社会は駄目ではないだろうか。このことを無かったことにして、今までどおりに生きていくことはできない。

このことを一生懸命考えたのが夏目漱石。官費留学した先進国イギリスに日本が手本とすべき希望は無いと知った漱石は、『三四郎』の中で、帝都東京でどう生きていけばいいのかわからない熊本出の青年を描いた。悩む三四郎は私そのものだった。私は悩み、本も読み、悩むことは生きる力になるということをその時に学んだ。そして行動に出た。それが金大中氏拉致事件の時のハンガーストライキだった。

今イギリスで若者が暴動を起こしている、前にはフランスでも移民暴動があった。ウォール街にも一万人近い人々が繰り出している。私は、ああここにも十七歳だった自分と同じ若者がいると思い、彼らを単に暴徒とは呼べない。何を為すべきか、どう考えるべきか、若者が考え行動している。

放射能汚染の中でどう暮らしていくか。年寄りと若い世代とでは選択が異なる。これからは一人一人が自分で選択していくしかない。空気を読んだり、他人に合わせることで生き延びられない。自分で考え、身の丈で生きることを、漱石は「自己本位」と表現した。

人間には利己だけでなく、友愛関係で生きていたいという感情もある。福島や岩手の人を支援したいと行動した人が大勢いた。ゼロサム原理だったアメリカ社会にも、「あなたの幸福は私の幸福、あなたの不幸は私の不幸」といううねりが広がっている。フクシマに関してはせめぎ合いもある。生き物としての恐怖感から、他者に対して差別的、暴力的になっていく。しかし震災以降我々は学んだ。人を支えなければ人は生きていけない。「自己本位で、自分で考える。だからこそ他者を支える、そして支えられる。そういう時代にしなくてはならない。

希望というものは人から与えられるものではない。ユダヤ人強制収容所で死の瀬戸際まで行った فرانクル は「人生の目的は幸せになることではない。幸せは結果としてそうなる。大切なことは、人生の問いかけに応える努力をすること。そして生きる意味を見出す努力をしていくことだと言っている。

皆さんにも今後いろんなことがあるだろう。そんな時、“悩むのは生きている証拠だ、自分を支える生きる力だ”と思い生き延びてほしい。そして“共に”生き延び、希望に向かって進んでほしい。

従来還暦を迎えた学年が当番生として同窓会総会後の祝賀会の企画・運営を行なっていましたが、本年度は創立百周年という大きな節目であること、また多くの世代に参加していただける同窓会を目指していくということから、共学一期生の高校32回生に加わっていただき、高校22回生と共に二つの学年の皆様へ実行委員をお願いしました。

記念事業開催に向けては事前から何度も打ち合わせ会を行ない、前日の準備、当日は会場・駐車場整備、参加者受付、来賓接待、祝賀会進行等の役を務めていただき、当番生の皆様のご尽力により記念行事を滞りなく行うことができました。



22 回生当番長
伊東 弘子

今年度は高校22回生が慣例により、毎年開催される総会の当番学年でしたが、創立百周年の年であったため、記念式典・記念祝賀会の実行委員としてお手伝いをさせていただきました。記念式典当日は受付・接待などを主に担当しましたが、大きな問題もなく役割を果たすことができ、ほっとしたものでした。

実行委員としての準備は、各クラスから、家庭の諸事情がある中で家族の理解を得てお願いした方々により半年程前から何回か打ち合わせを行いました。高校卒業以来会う機会もなく過ごしていた私達でしたが、集まった瞬間から在学当時を思い出し、高校生の気分に逆戻りして、気楽な雰囲気の中で進みました。最初は様子分からず、構えていた私たちでしたが、無事役割を終えてみれば皆達成感をもった事と思います。そして、役を終えた後にも同期生の集まりを大切に続けていこうという声が出たことは自然の流れだと思います。

来年度の総会に向けて、次の当番学年に引き継ぐことができ安心しております。盛大な会になりますように、そして同窓会がますます発展されますようにお祈り申し上げます。



32 回生当番長
蟹澤 英典

早いもので卒業から30年が経ってしまいましたが、この度、記念式典のサポートというご縁に恵まれ高校22回生の先輩方と共に貴重な体験をさせていただきました。

共学初年度の緊張感も会場に多数の男子生徒を見るに付け過去の記憶となったことを懐かしく感じました。合唱部の皆さんの歌う校歌を聞きながら歌声の素晴らしさと共に改めて歌詞を噛みしめると、在学中にはあまりに普通で気にもしなかった弥生ヶ丘高校で学ぶということが、本当に恵まれた環境であったことに気がつきます。

さて記念講演も含め、滞りなく終了した式典でしたが、会場にはエレベーターが無く、また都合により多くの諸先輩方を上階へ案内せざるを得なかったことは大変心苦しく大きな反省点でありました。続く祝賀会も盛大に執り行われましたが出席人数に対して会場が狭すぎた感否めず、大変申し訳なく思いました。

諸先輩あつての私たちであり、在校生であるという自覚を共通認識として持てると今後もなお一層、同窓会も盛り上がっていくのではないのでしょうか。

◆◆◆◆◆ 事業報告 ◆◆◆◆◆

- 15. 2.29 三者（同窓会・PTA・学校）協議
- 18. 5.22 第1回世話人会
- 18. 7.24 第1回準備委員会
- 19. 2.20 第2回準備委員会
- 19. 5. 9 第3回準備委員会
- 20. 1.29 第4回準備委員会
- 第1回実行委員会理事会
- 20. 8. 7 専門委員会正副委員長会
- 20. 9. 1 第2回実行委員会理事会
- 20. 9.22 校内視察
- 20.12. 2 ホームページ開設
- 21. 2.19 環境整備委員会小委員会
- 21. 7.30 環境整備小委員会
- 21. 8.22 第3回実行委員会理事会
- 21. 8. 名簿発行
- 21.12. 8 第1回実行委員会総会
- 22. 5.20 同窓会報発行
- 22. 5.29 (支部長会)
- 23. 1.12 第2回実行委員会総会
- 23. 2.15 多目的教室改修工事指名業者現場説明会
- 23. 2.22 多目的教室改修工事入札・開札
- 23. 2.23 落札業者との契約 改修工事着手

- 23. 4.16 当番学年打ち合わせ会
- 23. 4.23 記念植樹式
- 23. 9. 9 寄贈楽器披露式
- 23. 9.29 多目的教室竣工式
- 23.10. 8 記念式典・講演会、祝賀会挙行
- 24. 2.25 第3回実行委員会総会
- 創立百周年記念誌発行
- 同窓会報発行

〈募金委員会〉

委員会 4 回 募金活動の推進

〈広報委員会〉

委員会 5 回 同窓会報の発行 HP の開設

〈名簿委員会〉

委員会 4 回 会員名簿の発行

〈環境整備委員会〉

委員会 4 回 記念事業（教育環境整備）の推進

〈記録委員会〉

委員会 26 回 記念誌の作成 記念事業の記録

〈式典委員会〉

委員会 3 回 記念式典に関する企画、推進

創立百周年記念誌「百年の歩み」購入について

3,000 円 (送料 350 円は別) で限定販売中です。まだ数に余裕がありますので、ご希望の方は事務局までご連絡ください。

長野県伊那弥生ヶ丘高等学校創立百周年記念事業決算書

収 入：45,986,698 円
支 出：39,343,443 円
差引残高： 6,643,255 円

平成 24 年 2 月 25 日

1. 収入の部

項目節			予算額	決算額	増減	備考
1. 寄付金	1. 寄付金		39,800,000	45,798,620	5,998,620	
		1. 同窓会員	36,800,000	41,773,620	4,973,620	同窓会員
		2. 篤志者	3,000,000	4,025,000	1,025,000	学校現・旧職員、企業等
2. 雑収入	1. 雑収入		200,000	188,078	△ 11,922	繰入金・利息等
合 計			40,000,000	45,986,698	5,986,698	

2. 支出の部

項目節			予算額	決算額	増減	備考
1. 事務費	1. 事務費	1. 賃金	2,800,000	3,529,178	729,178	事務局職員賃金（2名分）
		2. 旅費	100,000	5,000	△ 95,000	東京支部長会議出席旅費補助
		3. 会議費	600,000	271,654	△ 328,346	各種会議費
		4. 印刷費	800,000	33,905	△ 766,095	封筒印刷
		5. 消耗品費	500,000	331,669	△ 168,331	事務用消耗品
		6. 通信費	500,000	83,426	△ 416,574	はがき、通知郵送料
		7. 事務局整備費	300,000	60,000	△ 240,000	H P 管理・更新手数料
			28,200,000	30,229,342	2,029,342	
2. 事業費	1. 募金費		2,100,000	2,512,728	412,728	
		1. 印刷費	500,000	1,150,905	650,905	趣意書・要綱・領収書等印刷
		2. 消耗品費	200,000	135,932	△ 64,068	ラベル、袋等
		3. 通信費	600,000	699,705	99,705	郵送料
		4. 活動費	500,000	408,776	△ 91,224	支部会議費、還元金等
		5. 旅費	100,000	0	△ 100,000	
		6. 手数料	200,000	117,410	△ 82,590	金融機関振込手数料負担
	2. 広報費		1,000,000	836,010	△ 163,990	
		1. 印刷費	500,000	833,490	333,490	同窓会報発行（2回）
		2. 通信費	500,000	2,520	△ 497,480	切手代
	3. 名簿費		100,000	0	△ 100,000	
		1. 印刷費	50,000	0	△ 50,000	
		2. 消耗品費	50,000	0	△ 50,000	
	4. 環境整備費		25,000,000	23,564,294	△ 1,435,706	
		1. 多目的教室整備費	20,000,000	20,414,326	414,326	多目的教室改修費、備品
		2. クラブ活動助成費	3,000,000	2,989,805	△ 10,195	楽器購入、クラブ助成
		3. 学校環境設備費	2,000,000	160,163	△ 1,839,837	植樹式関係費用
	5. 記録費		5,000,000	3,316,310	△ 1,683,690	
		1. 印刷費	4,000,000	3,058,650	△ 941,350	記念誌・注文書印刷
		2. 通信費	800,000	0	△ 800,000	
		3. 消耗品費	200,000	257,660	57,660	航空写真外
3. 行事費	1. 式典費		5,210,000	4,799,269	△ 410,731	
			3,010,000	3,622,284	612,284	
		1. 消耗品費	200,000	139,584	△ 60,416	用紙、名札、茶菓子外
		2. 印刷費	600,000	112,350	△ 487,650	配布封筒印刷
		3. 記念品費	500,000	383,000	△ 117,000	クリアファイル製作費等
		4. 表彰費	10,000	45,600	35,600	額
		5. 使用料	200,000	316,935	116,935	文化会館使用料
		6. 講演会費	500,000	304,895	△ 195,105	講演会費、モニター中継費用
		7. 広告料	1,000,000	2,319,920	1,319,920	新聞特集記事掲載（4紙）
	2. 祝賀会費		2,200,000	1,176,985	△ 1,023,015	
		1. 祝宴費	2,000,000	1,176,985	△ 823,015	祝賀会費、出演者謝礼
		2. 会場費	200,000	0	△ 200,000	
4. 予備費	1. 予備費		990,000	0	△ 990,000	
		1. 予備費	990,000	0	△ 990,000	
合 計			40,000,000	39,343,443	△ 656,557	

※残高は今後の同窓会活動の推進、発展のため基金として積み立てます

伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会報 第2号 平成 24 年 2 月 25 日発行

発行人：同窓会長 清水貞子

発 行：伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会

〒 396-0026 長野県伊那市西町 5703 TEL/FAX.0265-76-0615

印 刷：有限会社マスマタ印刷

E-mail：yayoidoso@heart.ocn.ne.jp